

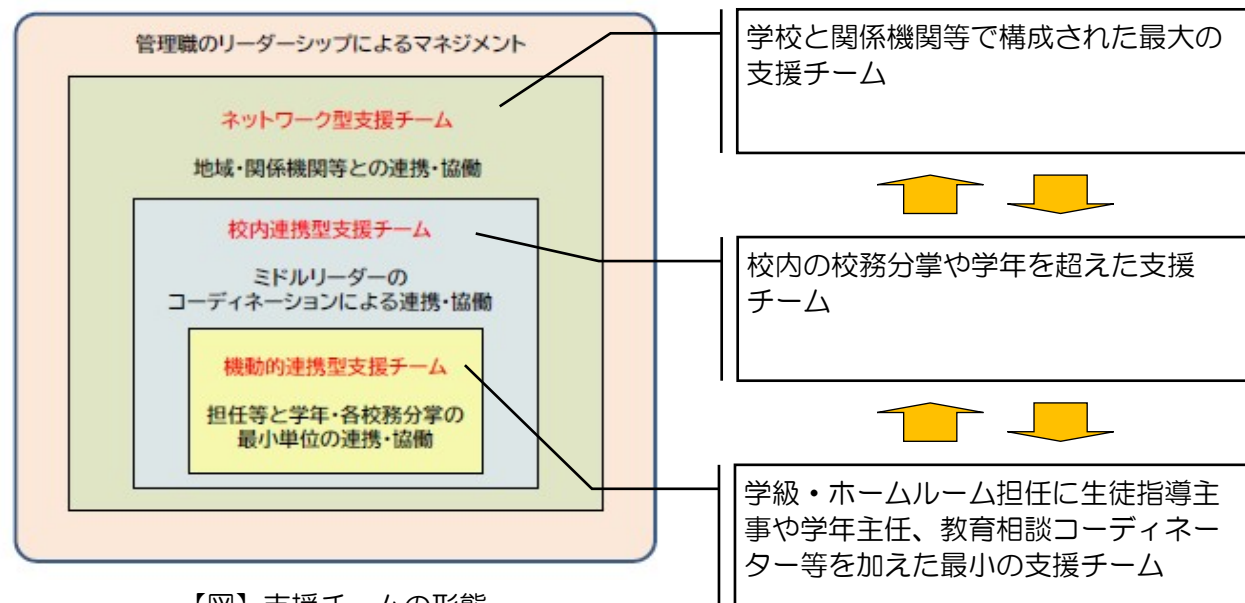
コラム 人生課長の独り言～一歩進めるためのヒント～

課題早期発見対応も「チーム」で

課題早期発見対応を行うためには、素早い情報共有と迅速な支援方針の決定、明確な役割分担が必須となります。まさに「チーム」で対応することが求められていると言えます。逆を言えば、次の困難課題対応的生徒指導への移行が必要になるケースは、この段階での「チーム対応」に不備がある場合も少なくないということです。

個々の先生方の「気付き」や「違和感」をスムーズに組織に吸い上げるための仕組み（ルートや窓口）があり、かつ、全ての教職員で共有されているでしょうか？職員室には、些細な出来事も気兼ねなく言うことができる雰囲気はあるでしょうか？

原則として、1人の児童生徒に対して、1つの支援チームを編成しますが、事案の内容や状況によって、「チーム」形態を使い分ける【図】ことも大切です。スピード感を重視するなら、まずは最小単位のチームで迅速な対応を行うべきですが、どの段階で次のチームに以降するか？誰が（どこが）移行の判断を行うか？あらかじめ明確化しておくことも必要です。そして、ここで重要なのが全てのチームを包括する「管理職のリーダーシップによるマネジメント」となります。（高橋）



【図】支援チームの形態



課題予防的生徒指導 (課題早期発見対応)のポイント

Voi.34の困難課題対応的生徒指導のポイントに続いて、今回は3類の生徒指導の一つである「課題予防的生徒指導（課題早期発見対応）」について考えてみます。いじめや児童生徒の自殺の問題など、「早期発見」が大切であり、各校、様々な取組を行ってくださっていることと思いますが、どのようにすれば、より効果的に「早期発見」ができるのでしょうか？

Q. 「課題予防的生徒指導」のポイントについて教えてください。

A. 問題が起こる前に対応することで、児童生徒が抱えるかもしれない困難を未然に防ぐことにより、児童生徒一人ひとりが安心して学べる環境を整えることができます。

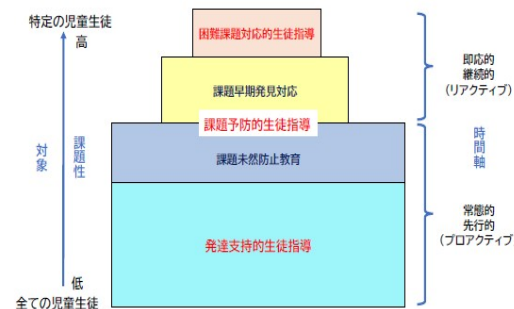
児童生徒との信頼関係が「課題予防的生徒指導」の土台となります。第1層の「発達支持的生徒指導」の充実が重要です。児童生徒との温かい人間関係を構築したり、児童生徒の話をじっくり聞き、気持ちに寄り添う姿勢（傾聴と共感）を見せることで信頼関係を構築します。定期的に個別面談の時間を設けるなど、一人一人の児童生徒と向き合うことも大切です。

学校全体の環境が、児童生徒の行動に大きく影響します。期待される行動（ルールと規律）を明確にし、一貫した指導を行うことが大切です。特に、教師によって対応が異なるなど、ダブルスタンダードにならないよう留意します。教職員間で情報を共有し、組織として児童生徒を支える体制を築きます。

「発達支持的生徒指導」が基盤

「課題早期発見対応」のためのポイント

「課題早期発見対応」は、「課題予防的生徒指導」に位置付け【図】られます。児童生徒たちのSOSにいち早く気づき、適切なサポートを提供することは、問題の深刻化を防ぐ上でとても重要であり、『提要』では次の様に記載されています（P.21）



課題の予兆行動が見られたり、問題行動のリスクが高まったりするなど、気になる一部の児童生徒を対象に、深刻な問題に発展しないように、初期の段階で諸課題を発見し、対応すること

＜早期発見のための視点＞

- ① 日常の観察… 普段の学校生活の中にヒントはたくさんあります。
 - ▶ 表情や顔色：笑顔が少ない、疲れているように見える など
 - ▶ 言動の変化：無口になった、急に反抗的になった など



『提要』のダウンロードはコチラ

- ▶ 学習態度の変化：集中力の欠如、課題提出の遅れ、成績の急落 など
 - ▶ 友人関係：特定の児童生徒との関係性変化、孤立していないか など
- ② 環境の変化… 児童生徒を取り巻く環境の変化にも注目します。
- ▶ 家庭環境：保護者連絡や家庭での様子の変化 など
 - ▶ 生活リズム：食事や睡眠、規則正しい生活が送れているか など
 - ▶ インターネット利用：SNSでの発言内容、オンラインゲームへの過度な没頭 など

＜組織的なスクリーニングとアセスメント＞

早期発見・対応を個人の経験や勘だけに頼らず、組織として仕組み化することが求められます。

多角的な情報収集：アンケート調査、定期面接、健康観察、SC等による全員面接などを組み合わせて実態を把握します。

スクリーニング会議：担任だけでなく、生徒指導主事、養護教諭、SC、SSW等が集まり、気になる児童生徒の情報を共有してどの程度のリスクがあるのか検討します。

迅速な「機動的」対応：担任、学年主任、生徒指導主事等による「機動的連携型支援チーム」を編成し、即座に家庭訪問や個別相談を開始します。

情報連携
+
行動連携

児童生徒の援助希求を促す関わり

「困った、助けて」と言える雰囲気づくりも早期発見には欠かせません。

- ◇ **否定せず聴く**：児童生徒が悩みを打ち明けた際は、叱責や助言を急がず、まずは受容的・共感的に傾聴します。
- ◇ **SOSの出し方教育**：誰にでも悩みはあることを伝え、適切に人を頼る（援助希求的態度）ことの大切さを授業等を通じて育みます。

POINT

教職員間で早期発見の視点（注目ポイント）の交流も有効